

B●O●O●K REVIEW

速解！調剤報酬 2024-25

著：山小路子（オフィスシリウス）

“わからない”がなくなる、 調剤報酬理解のための一冊

薬局薬剤師の仕事が「モノからヒトへ」といわれ始めたところから保険薬局での仕事は大きく変化してきた。薬学教育6年制も定着し、処方箋監査の質や服薬指導の内容が大きく向上したことを実感している。仕事の変化に対応するためにはインセンティブの一つである調剤報酬が大きな役割を果たしているが、毎年のように変更点があるうえ、お役所独特の表現や言い回しに苦心しながら運用してきた。幸い、私の薬局では優秀な管理薬剤師に保険調剤について教えてもらうことができるのだが、果たして要件の取りこぼしはないだろうか？ 都合よく解釈していないだろうか？ と不安になることもある。

本書を手にして、これまで時間をかけて調べていた要件や法的根拠が明確にそして簡潔に記載されている点について好印象をもった。この本は「速解」をかなり意識されており、検索性が抜群に優れていることがポイントだ。表紙にインデックスが記されることで、目次を開く行為をひと手間省いて調べ始めることができる。疑問点が出た際には、点数、算定要件、その法的根拠をそれぞれ調べなければならないが、参考とすべき資料のURLまで掲載されており、その場で素早く調べることができる。レセプト鑑査まで意識されており、電算コードや略称が記載された本はこれまで見たことがない。山小路子先生らしい切り口とわかりやすい表現で、新人薬剤師の教科書、ベテラン薬剤師の理解度の確認、薬局の業務見直しのたたき台などとして非常に有用なので是非、薬局に備えたい一冊だ。



B5判／219頁

定価：3,080円（本体2,800円＋税10%）

発行：南山堂（2025年3月）

インターネットから得られる新鮮な情報はとても有用ではあるが、ソースによっては地域性、投稿者の表現不足、曲解など注意点を理解したうえで活用しなければならない。半面、書籍の情報は2年に1回改定される調剤報酬に考慮すべき点があることを踏まえなければならない。保険薬剤師が窓口に立ち、また在宅訪問するうえで、この本をしっかりと読み込みばQ&Aに記載されないさまざまなケースに自信をもって対応していける。複雑な保険点数を計算するためにはレセコンに頼らなければならないが、自動算定された内容を説明する責務も保険薬局薬剤師の多岐にわたる仕事の一つだと改めて感じさせられた。

株式会社メディアール 代表取締役/薬剤師

板木祐介